

平成23年度「日本／ユネスコパートナーシップ事業」
ユネスコスクール地域交流会in金沢
参加（発表）報告書

提出日 2011年 9月 22日

1. 学校基本情報

学校基本情報Ⅰ				
ふりがな	いしかわけんかなざわしあわがさきちよう			
住所	〒 920 - 226 石川 都道府県 金沢市粟崎町へ78番地			
連絡先	TEL	076 - 238 - 2234	FAX	076 - 238 - 2206
	E-MAIL	awagasaki-e@kanazawa-city.ed.jp		HP
ふりがな	かなざわしりつあわがさきしょうがっこう			
学校名	金沢市立粟崎小学校			
ふりがな	ふくひさ としひこ			
学校長名	福久 俊彦			
ユネスコスクール 加盟時期	申請中 年 月			
ふりがな	うこん ひろあき			
発表教員氏名	右近 宏明			
役職	教諭	担当教科・学 年	6年	
学校基本情報Ⅱ				
学校の教育目標とその説明 (300字程度)	<p>教育目標は「創造・共生・感動の教育」としている。この目標達成のため、次のような5つの重点事項を具体的な指導に生かしている。</p> <p>(1) 知育・徳育・体育のバランスを重視し、心ふれ合う温かい人間関係を築く教育 (2) 学校及び地域の一員としての自覚をもたせ、基本的な生活習慣を身につける教育 (3) 自ら学び、自ら判断するための基礎基本の力を着実に身につける教育 (4) 自ら身体を動かして体得することの喜びと大切さを味わわせる教育 (5) 自然・人・社会との「絆」を認識し、尊重し、持続可能な社会を担う人間性を育てる教育</p>			
地域の特徴とこれまでの活動実績 (500字程度)	<p>本校の校区の特徴は次のような点である。(1) 金沢市の北部に位置し海岸にも近く、砂丘地に畑、住宅地が広がっている。(2) 主な産業は砂丘地でのサツマイモやスイカなど栽培が盛んである。特に、サツマイモは「五郎島金時」という伝統的加賀野菜として有名である。(3) 校区住民の多くは会社等の勤め人である。(4) 地域社会や保護者の学校教育への理解や協力はとても良く、この度のユネスコ・スクールの加盟申請やESDに関しても積極的に受け入れてくれた。</p> <p>これまでの活動実績としては、(1) 総合的な学習や生活科を中心に、さまざまな地域学習を取り入れたカリキュラムを行ってきた。(2) PTA活動の中にサツマイモ栽培など地域の特徴を生かした農業体験的な活動を取り入れている。(3) 今年度からユネスコ・スクールへの加盟を申請し、これまでの地域学習を土台に「粟崎に生きる」というテーマを掲げESDに取り組んでいる。</p>			

2. 今回、交流会で発表された学校でのESD活動について下記にまとめてください。

活動 タイトル (30字以内)	「粟崎に生きる」をテーマとした本校の取り組み
目的 (300字程度)	<p>粟崎の地域の特徴（砂丘地・五郎島金時・スイカなどの農産物、獅子舞・奴などの伝統文化）を素材とし、地域のひと・もの・ことについて調べたことを、自分の言葉で表現し、友だちと話し合いながら、新たな問いをたてる。さらに自らたてた問いについて、資料で調べたり、地域で生き抜いてこられた方達の経験を知りながら追求したり、自分が地域でどのように生きていくべきかについて考えたりすることを目的としている。</p>

対象学年・対象者	1～6年	対象人数	509	教科・ 課外活動	生活科・総合
<p>内容 (スペースは自由に 広げてください) (800字以上)</p>	<p>各学年のテーマ 1年 栗崎となかよし 2年 栗崎をたんけん 3年 栗崎のよさを見つけよう 4年 誰もが住みよい町づくり 5年 砂とともに生きる町・栗崎 6年 人とのつながりの中で生きる</p> <p>1年生は、生活科を中心にESDに取り組んでいます。栗崎の名産である五郎島金時を育てる学習では、植え方をしっかりと教えていただきました。植えた後は、一人ひとりが責任を持って水やりをしたり、クラスで雑草抜きに取り組んだりしています。</p> <p>2年生も生活科を中心に取り組んでいます。栗崎の町中を探検しながら、町に見られる豊かな自然を観察したり、有名な場所を見学したりして、自分のお気に入りの場所を見つける取り組みをしました。</p> <p>3年生以上は、総合的な学習の時間を中心に取り組んでいます。3年生は社会科の校区学習とリンクさせて、2年生で個別に捉えていた町の自然や名所を校区全体の中で捉えて、栗崎の地域について理解を深めました。また、獅子舞保存会の方々をお招きして、獅子舞のことを教えていただいたり、実際の獅子舞を見せていただいたりしました。</p> <p>4年生は、栗崎の町中で、誰もが住みよい町にするためにどんな工夫があるのかを探究します。7月までは、主に「誰もが住みよい」とはどういうことかを知るために、目の不自由な方との交流やアイマスク体験をしました。</p> <p>5年生は、栗崎の名産であるスイカ・五郎島金時の栽培・収穫・試食の体験学習を行います。一人1玉以上持ち帰ることができたほどの収穫がありました。また、生産者の方との交流給食では、プロの育てたスイカと自分たちの育てたスイカを比べることで、プロの技のすばらしさを2重の意味で味わうことができました。</p> <p>6年生は、栗崎を飛び出して、金沢に対する理解や愛情を深める学習をしました。近年、観光の目玉にもなってきた百万石祭りについて調べてまとめたり、兼六園や金沢城、21世紀美術館などの名所、金沢金箔、加賀友禅などの伝統工芸について調べてまとめたりしました。歴史や伝統のあるものを守り、受け継いでいられる方々の存在を知ること、人とのつながりを意識できたらと考えています。</p>				
<p>【貴校におけるユネスコスクール・ESD活動について教えてください。】(Oで囲む)</p>					
<p>*①学校内でESD、ユネスコスクール関連の連絡会議がありますか。 (はい)・いいえ)</p>					
<p>*②ESDカレンダーを作成していますか。 (はい)・いいえ)</p>					
<p>*③活動の実施に当たり、外部の方の協力を得ていますか。 (はい)・いいえ)</p>					
<p>*④活動の結果、生徒の行動や思考に変化が生じていると感じますか。 (はい)・いいえ)</p>					
<p>*⑤活動を通して先生ご自身が新たに気づいたことがありますか。 (はい)・いいえ)</p>					
<p>◎上記の活動を通して、先生が発見したこと、生徒の感想や保護者、地域の方々の声、先生のご感想などを自由に書いてください。</p>					
<p>教科・道徳・総合的な学習の時間それぞれの関連性をより明確にすることが、ESDの推進にも、児童の学力にも相互に作用することが分かった。</p>					

*①～⑤について

平成22年度文部科学省「日本／ユネスコパートナーシップ事業」学校&みんなのESDプロジェクト活動報告書『ひろがりつながるESD実践事例48』(P.159)をご参照ください。

3. コメント

この地域交流会の参加を通して、先生が発見したこと、ご感想やご意見などを自由に書いてください。（500字以上）

気仙沼市立馬籠小学校の実践発表において

地域学習を中心にESDに取り組んでいらっしゃる点、校地に学校林がある点など本校と共通点のある馬籠小の実践を興味深く聴かせていただいた。特に印象的であったのは、「互恵性」である。地域の方々にお世話になって、体験活動をさせていただいたり、地域のことをたくさん教えていただいたりと、学校というものは得てして、学校側が受ける恩恵＝子どもたちの成長のを中心に考えがちである。

しかし、地域とのESDに取り組んでいくにあたって、地域の人にも何らかの恩恵があるべきなのではないかとおっしゃっていたことは、目から鱗が落ちるようであった。協力してくださる皆さんは、子どもたちが喜んでいる姿を目にすることや、頑張っている姿に触れることで、「元気づけられる気がして満足だ」とおっしゃってくださるが、そこにばかり甘えてはいられないのも尤もなことである。将来粟崎を担う大人を育てている長期的な視野だけでなく、短期的な恩恵ということも考えていく必要があると思った。

分科会においてほとんどが金沢市内からの発表であったが、遠く大阪から参加された大阪府立北淀高等学校の取り組みが印象的であった。教科学習では思うような自分を見いだせず高校までやってきた生徒が、ESDだからこそできる取り組みによって、自分を発見し、その好影響が教科学習にまで及んでいるという正のスパイラルに心打たれた。ESDの違う側面の可能性を教えていただいた。